

# 令和6年度茨城県芸術祭映像コンクール作品発表会

12:30 開場  
13:00 開会 主催者あいさつ  
受賞者紹介  
審査講評  
13:30 作品上映(右面参照)  
15:30 終了

## ～ 審査評 ～

近年減少傾向にあった出品数が僅かながらも増加したことや10代の若い方からの出品があったことが、今年の特筆されることと思われま

す。特賞の「ロウル風紀委員会 茨城県芸術祭映像コンクールSP」は、その若き作家の作品です。ロウルと称する不気味な風体の人物が紹介する祭りのゴミ問題を実態調査した報告映像で、作品全体に使われるエフェクト、キャプション、映像演出やナレーションなどの編集は、現代の映像表現の特徴が現れていると言えるでしょう。一方でゴミ拾いの活動や活動に対する社会的評価を構成させ公共性を担保する姿勢は正統派で、ロウル氏の不気味さと相反して作品の魅力を生んでいます。

優賞には、「私のウォーキング」「零戦で散った若き飛行兵の面影を追って」の2作品が選ばれました。「私のウォーキング」は、作者の24年間のウォーキングの記録を紹介したセルフ・ドキュメンタリー作品です。通常セルフ・ドキュメンタリーは自身の姿の映像を中心として構成、紹介されるものが思い浮かびますが、本作は歩行距離をデータとして紹介し、総距離が4万キロにおよびほぼ地球一周にあたるものが数値で明かされます。圧倒的な数値データの迫力が映像作品を成立させている独特の作品です。「零戦で散った若き飛行兵の面影を追って」は、茨城町にある戦没者慰霊碑をめぐる作品です。碑は戦時中に墜落した零戦の飛行兵を祀るもので、二人の歴史家により飛行兵の身元や故郷の墓所が判明する過程が紹介されます。戦史記録であると同時に地域の方々が碑を現在も守り続けている姿にも心を動かされます。

奨励賞は「水海道祇園祭」「光圀公の武茂郷巡村」「奇祭 富士ヶ丘棒ささら舞いの伝承」「旧渡辺甚吉邸」の4点が選ばれました。2作品が祭を記録した作品で、「水海道祇園祭」は、祭の中に参加しているようにも思えるカメラポジションの映像がナレーション無しで展開する臨場感ある作品、「奇祭 富士ヶ丘棒ささら舞いの伝承」は、ささら舞いが伝承公開される過程を被写体と距離をとって撮影編集された記録性の高い作品です。祭を題材としても、作者の視点や撮影法、編集法によって異なる趣の作品が出来上がることを再確認させられました。「光圀公の武茂郷巡村」は、史料をもとに各地を巡る紀行作品、「旧渡辺甚吉邸」は、国登録文化財に登録され移築・復元された昭和初期建築物を紹介した文化作品です。いずれも当地に赴き現地・現物を体感したくなります。

茨城新聞社賞の「今に残る日立集中豪雨の爪あと」は、昨年9月の台風による日立の被災が半年後も復旧がなされていない様子を映像によって紹介した作品です。改めて災害の大きさと復旧の滞りを痛感させられます。

10代の方が特賞を受賞されたことは、長年のこのコンクールでも特別な事と思われま

す。これが映像コンクールの新しい時代の到来となり多くの若い作家たちが参加して下さること、あわせてベテランの作家たちの刺激となって充実した作品が多く作られ出品して下さることを望みます。(島田 裕之)

《審査員》 島田 裕之 (茨城大学特任教授)  
岡崎 好美 (元NHK水戸放送局チーフカメラマン)  
鈴木 崇伸 (ケーブルテレビJWAY制作部課長)

## ～ 上映作品 ～

各作品の説明は、応募票に記載された作者のコメントから抜粋しました。

入選		<b>千国街道に春がくる</b> 佐藤 勝男(日立市) 信州長野は、三千メートル級の山並が貫いています。雪が解けて川の水も増え、桜が咲き、野の花も風にゆれています。日本物流街道と知られた歴史ある千国街道の春を描きました。
入選		<b>安寿と厨子王の物語</b> 時崎 清(高萩市) 安寿と厨子王と言えば伝説上の話かと思っていたが、取材してみると、いわき地方で実際にあった話であることがわかって驚いた。励まし助け合う二人の姿に心打たれて制作した。
茨城新聞社賞		<b>今に残る 日立集中豪雨の爪あと</b> 真弓 喜幸(日立市) 昨年9月、台風13号による集中豪雨が日立市を襲い壊滅的な被害を受けた。あれから半年後の被災地をたずね、その爪あとを目の当たりにし、防災の重要性を伝えたい。
奨励賞		<b>旧渡辺甚吉邸</b> 廣瀬 清志(取手市) 昭和初期の日本建築の傑作といわれる建物が取手市にあり、国登録文化財となり、一般公開が行われたので撮影した。貴重な文化財が保存、受け継がれていくことを願って制作した。
奨励賞		<b>奇祭 富士ヶ丘棒ささら舞いの伝承</b> 遊座 文一(北茨城市) このささら舞いは、元禄中期から続く北茨城市の指定無形民俗文化財で、その伝承の様子を地元の皆さんの協力により映像に残すことが出来た、今後に役立てればありがたいと思います。
休憩		
奨励賞		<b>光圀公の武茂郷巡村</b> 吉澤 富夫(那珂市) 栃木県の旧馬頭町に隣接する一帯は「武茂郷」と呼ばれ、江戸時代には水戸藩領であったことを知りました。光圀公も度々訪れており、その足跡をたどり記録に残すことにしました。
奨励賞		<b>水海道祇園祭</b> 横谷 重男(常総市) 2015年の鬼怒川堤防決壊により常総市の3分の1が浸水した。その後、多くの住民が移住し、寂しくなった商店街だが、祭りには多くの人々が訪れて、熱気が復活し賑わった。
優賞		<b>零戦で散った若き飛行兵の面影を追って</b> 上野 卓哉(笠間市) 昭和20年6月、米軍戦闘機と交戦し、茨城町木部地区に墜落戦死した若き飛行兵。茨城町に埋葬されたが昭和49年に身元がわかり、兵庫県の故郷に戻る事が出来た。
優賞		<b>私のウォーキング</b> 原田 英一郎(日立市) 2001年から2024年までのウォーキングの記録を纏めてみました。その結果、この24年間の総歩行距離が4万キロを超え、地球一周をしている事を知り我ながら驚いています。
特賞		<b>ロウル風紀委員会 茨城県芸術祭映像コンクールSP</b> 遠藤 康太(水戸市) アンダーグラウンドな実態調査を行う「ロウル風紀委員会」。今回は、祭りの後のゴミの実態に迫る。過酷なロケを行い調査したVTRで、ロウル様が世の中の風紀の乱れを正す。